

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：14602

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520750

研究課題名(和文) 日本近代コスメトロジー(化粧品学)の展開と女性の衛生～美容家藤波芙蓉の事跡を中心に

研究課題名(英文) Study of the spread of cosmetology in modern Japan and women's hygiene through an analysis of cosmetician Fuyo Fujinami

研究代表者

鈴木 則子(Suzuki, Noriko)

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：20335475

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：藤波芙蓉(明治5～昭和27年(1872～1952))は、ちょうど日本の化粧品業界が大きな成長を遂げた明治末から昭和初期にかけて、新聞・雑誌・映画撮影などで活躍した男性美容家である。

本研究は芙蓉の美容家としての活動が、日本人、とりわけ女性の近代化を意識した啓蒙的な性格を強く持つものであったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Fuyo Fujinami (1872-1952) was a male cosmetician who was an active newspaper and magazine writer and contributed to filmmaking from the late Meiji (1868-1912) to early Showa (1926-1989) eras, which corresponded to the period of great growth in the Japanese cosmetics industry.

In this study, I clarified that his activities as a cosmetician promoted modernization of Japanese, especially Japanese women.

研究分野：日本史

キーワード：藤波芙蓉

1, 研究開始当初の背景

研究代表者鈴木則子は、本研究を開始する以前から、日本近世・近代の医療社会史研究を行ってきた。そのなかで、医学書・養生書・女用物・日記史料などの分析に基づき、近世後期から養生・衛生知識が美容行為と深く結びついてきたことを明らかにしてきた。

次の研究段階として、近世の化粧と養生・衛生の結びつきが、近代社会のなかでどのように展開するのかを分析したいと考えた。その分析対象として選んだのが、近代の美容研究家・藤波芙蓉である。

2, 研究の目的

藤波芙蓉（明治5年～昭和27年）は、明治末から昭和初期にかけて「現代化粧界の第一人者」（『読売新聞』）と呼ばれた男性美容研究家である。4冊の美容書をはじめ、『婦人画報』、『読売新聞』などに美容連載記事を執筆する一方で、化粧品製造・通信販売、映画の化粧顧問を行うなど、幅広く活躍した。

芙蓉の執筆記事は美容に関する問題をほぼ網羅し、いわゆる化粧技術から肌や髪の手入れ法、皮膚疾患治療法、化粧品調合法、美容体操やダイエット法、美容整形手術情報、服飾アドバイスなど多彩である。

しかし、これほどの活躍をみせたにもかかわらず、その生涯や業績も含めて芙蓉の事跡は日本近代化粧史のなかで、ほとんど研究されることがなかった。

本研究は、芙蓉の美容家としての活動の事跡の全貌を明らかにするとともに、「衛生美育」という彼の造語が象徴するその化粧学の特長や普及の過程を検討することを通じて、日本近代コスメトロジーが日本社会の近代化過程で果たした役割について明らかにすることを目的とする。

3, 研究の方法

(1) 子孫への聞き取り調査、出身地仙台の現地調査、著作物の分析から、芙蓉の経歴、閨閥、交友関係を明らかにし、その化粧学の学問的背景を確定する。

(2) 芙蓉の美容活動内容の実態を明らかにするために、芙蓉の著作物の収集・検討を行い、一般女性にどのようにしてその美容論が広められたのか、特に明治期に新たに登場した女性雑誌というメディアに注目しつつ明らかにする。

(3) 旧奈良女子高等師範学校（明治42年設立、現奈良女子大学）は芙蓉の著書を購入している。奈良女高師の家政学関係の蔵書を調査し、当時の女子衛生教育における芙蓉の化粧学の位相を明らかにする。

(4) 芙蓉の美容論の持つ啓蒙的な性格の特性を、日本近世・近代の社会史・女性史・衛生史研究のなかで位置づける。

4, 研究成果

(1) 上京までの履歴

芙蓉は明治5年（1872）、仙台市に誕生した。名前は鹿野恒吉。

少年時代にアメリカ人女性宣教師ハリエット・M・ブラウンに英語を学ぶと共に、彼女の化粧風俗に感銘を受けて西洋式化粧術に関心を持つ。

高等中学校出身と自ら著書に記すが、仙台市内の明治期の旧制中学の卒業生名簿から、鹿野恒吉の名を見つけることはできなかった。芙蓉の学歴については今後更に調査が必要である。

時期は未詳だが藤波たけの養女志摩の婿養子となる。

遅くとも明治26年には上京して作家をめざし、尾崎紅葉の弟子となる。

(2) 美容家になるまでの文筆活動

小説

代表的作品は明治26年発行の探偵小説『美人狩』（春陽堂）、明治40年連載の新聞小説『舜天丸』（『都新聞』）である。

宗教研究

禅学書では明治34年に『活禅録』（文学同志会）、同35年『禅学の奥義』（文学同志会）を刊行する。また、明治34年『読売新聞』紙上で「喇嘛教」「モルモン宗」を連載する。芙蓉は禅学研究を、化粧研究と共に自らのライフワークと後年記している。

政治関係書

明治37年に翻訳書『今日のロシア』（富山房）、『現露西亜朝廷』（鴻盟社）を出版する。日露戦争を目前に控えた時期で、読者のニーズを汲んでの執筆であろう。

福祉関係

明治41年から42年にかけて『東京市養育院月報』に福祉問題に関する記事を精力的に発表。英国の福祉関係報告書の翻訳記事も発表している。芙蓉は渋沢栄一が長年院長を務めた東京市養育院の事業と深く関わっていたと考えられる。

新聞記者としての活動

明治41年に一年弱、『都新聞』記者として活動する。主筆田川大吉郎は、のちに東京市助役となった社会派ジャーナリストである。芙蓉は田川によって都新聞社に採用され、『都新聞』の人気コーナー「相談の相談」担当記者となる。この読者の投稿に対する一問一答形式は、のちに芙蓉の美容雑誌記事の形態にそのまま採用されている。

歴史地理研究

明治41年の日本歴史地理学会学会誌『歴史地理』の「百名家論集」に民俗学関係の依頼原稿を執筆する。彼の宗教研究の一環とも考えられるが、今後の調査が必要である。

(3) 美容家としての活動

化粧書の刊行

明治43年、初めての化粧書『新式化粧法』(博文館)を刊行する。それ以前に化粧家としての活動を示す出版物は出していない。本書によると、本書刊行以前から、上流婦人達の小規模な化粧研究サロンの講師をしていたようだ。

活動の展開

本書刊行を皮切りに、芙蓉の化粧研究者としての活動は大きく広がっていく。代表的な活動は『女子文壇』・『婦人画報』・『読売新聞』の化粧記事の連載だが、そのほかに化粧品通信販売、映画の化粧顧問などで活躍する。

化粧記事の特質

芙蓉は「芙蓉式」と呼ばれる独特の西洋風薄化粧のスタイルを確立し、一世を風靡する。だが彼の化粧の独自性は、その技術面だけではなく、彼自身の化粧哲学でも際だっている。彼の化粧論は、日本女性の近代化を風俗面から達成しようという強い啓蒙家的な態度が明確である。

芙蓉の化粧観は、著書にある「化粧はアートであり、サイエンスである」と「衛生美育」という二つの言葉に象徴される。芙蓉が考える化粧美は国際社会で通用する日本人固有の美の実現であった。それは西洋から化粧法と化粧品を技術移転するだけで達成されるものではなく、高い美意識と科学的衛生知識を兼ね備える女性の育成を必須とすると考えられた。これは日露戦争を経て一等国への道を駆け上っていく日本の指導者層が求めた女性像でもあり、芙蓉の化粧研究は政財界や皇族、そしてアカデミズムからも支持された。

芙蓉の啓蒙家的な化粧観は、彼が38歳で化粧研究者として世に出る以前に、作家・新聞記者・宗教研究者として活動するなかで形成されたと考えられる。これらの著作では一貫して、日本の政治・経済・福祉・文化を国際水準に高めるための方策を追求する姿勢が示されていた。芙蓉の化粧研究は、この姿勢の延長線上に位置づけられる。すなわち、女性の美しさは国家の文明度の指標であると認識し、美容と化粧を日本の国家的近代化戦略としての文化政策の一翼を担うものと考えたのである。

5, 主な発表論文等

[雑誌論文] (計2件)

鈴木則子、江戸時代の結核と女性、女性歴史文化研究所紀要、査読無、22号、2014年、pp. 3-14

鈴木則子、近代日本コスметロジーの普及と展開をめぐる一考察、コスメトロジー研究報告、査読無、21号、2013年、pp.128-131

[学会発表] (計12件)

横田冬彦、近世中期の出産をめぐる人々、上智大学比較文化研究所シンポジウム、2014年12月20日、上智大学(東京都)

横田冬彦、益軒と柳枝軒 もう一つの書物文化の誕生、貝原益軒没後三百年記念「学ぶ楽しみを多くの人にー益軒と京書肆柳枝軒」展講演、2014年8月9日、京都大学附属図書館(京都市)

横田冬彦、大名屋敷から見た<首都>伏見、大阪歴史学会大会、2014年6月29日、関西学院大学(兵庫県)

鈴木則子、Scenes of Edo-period obstetric surgery, The Association for Asian Studies Annual Conference, 2014年3月30日、フィラデルフィア(アメリカ合衆国)

鈴木則子、江戸時代の産科手術、平成25年度総研大学術交流会、2014年3月20日、総合研究大学院大学(神奈川県)

横田冬彦、禁裏御典医百々家と近世京都の医療環境、読史会大会、2013年11月3日、京都大学(京都市)

鈴木則子、江戸時代の労働(結核)とジェンダー、第9回ジェンダー史学会大会、2012/12/08、東京外国語大学府中キャンパス(東京都)

鈴木則子他1名、明治期美容産業の成立過程、日本医史学会関西支部2012年総会・秋季学術集会、2012年11月11日、龍谷大学(京都市)

横田冬彦、徳川吉宗の医学書普及政策と在村医、京都医史学会大会、2012年10月11日、京都府医師会館(京都市)

横田冬彦、日本近代の遊女と遊客、京都橘大学女性歴史文化研究所シンポジウム報告、2012年7月28日、コンソーシアム京都(京都市)

鈴木則子、江戸後期の岡山県邑久郡周辺

における地域医療研究、第 113 回日本医史学会総会・学術大会、2012 年 6 月 16 日、順天堂大学（東京都）

鈴木則子、Epidemiological characteristics and medical treatment of mesales in Japan during the Edo period、2nd Eastern Asia Dermatology Congress、2012 年 6 月 14 日、北京国際会議センター（中華人民共和国）

[図書]（計 7 件）

鈴木則子他、思文閣出版、歴史における周縁と共生 女性・穢れ・衛生、2014 年、pp.398-425

鈴木則子他、思文閣出版、交錯する知 衣装・信仰・女性、2014 年、pp.398-425

横田冬彦他、朝日新聞社、新発見・日本の歴史 江戸 1、2014 年、pp1-38

横田冬彦他、岩波書店、岩波講座日本歴史 10 近世 1、2014 年、pp277-312

横田冬彦他、岩波書店、「従軍慰安婦」問題を / から考える、2014 年、pp159 - 166

鈴木則子、寝屋川市、みんな地球仲間、2013 年、pp.39-72

鈴木則子、吉川弘文館、江戸の流行り病、2012 年、全 211 頁

6、研究組織

（1）研究代表者

鈴木 則子（SUZUKI Noriko）

奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号 20335475

（2）研究分担者

横田 冬彦（YOKOTA Fuyuhiko）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号 70166883